

人とかかわりながらつくりだす喜びを味わえる児童の育成
 ― 交流活動を設定した題材指導計画の作成を通して ―

義務教育研究係

今泉 敦子 (小学校教諭)

山崎 清美 (小学校教諭)

星 野 正 (小学校教諭)

I 主題設定の理由

児童の中には、自分が表現したいことがなかなか見付けられない、表現したいことがあってもどのように表現していけばよいのかが考えられない、思いどおりに表現できる知識や技能が十分に身に付いていない、表現できても達成感や充実感をもつことができない、作品を見てもよさを味わうことができないといった理由から、絵をかいたりものをつくったり作品を鑑賞したりすることに苦手意識をもっている児童もいる。そのような児童が、進んで図画工作科の学習に取り組み、つくりだす喜びを十分味わえるようにするためには、児童が教師や友達とのかかわりを深め、思いを伝え合い、互いのよさを認め合い、自信をもって表現や鑑賞に取り組めるようにする必要がある。そこで、学習過程に交流活動を設定し、友達や教師とかわりながら、思いをふくらませたり、構想を練ったり、技能を高めたりして、思いどおりに表現し、そのよさを味わい、つくりだす喜びを味わえるようにしたいと考え本主題を設定した。

II 研修のねらいと課題解決策

1 研究のねらい

学習過程に交流活動を設定した題材指導計画を作成し、その実践を通して、思いを伝え合い、互いのよさを認め合いながら、つくりだす喜びを味わえる児童を育成するようにする。

2 課題解決策

指導過程に応じた次のような交流活動の中から、題材ごとに効果的な交流活動を選んで設定した「題材指導計画」を作成し、資料や学習形態、支援等を工夫した授業を実施する。

過程	交 流 活 動
で あ う	①題材のテーマについて話し合い、思いを広げ、表現できそうなことを考える。 ②材料や用具等から発想したことを話し合い、できそうなことを考える。 ③参考作品等の資料を見て、気付いたことや感じたことを話し合い、自分の表したいことを発想する。
ふ く ら ま せ る	④表したいことを発表し合い、さらに発想を広げながら、自分の思いを明確にする。 ⑤アイデアスケッチや試作品等を見合い、自分の思いを伝えたり、友達のアドバイスを参考にしたりしながら、構想を深める。 ⑥表し方について話し合い、製作の手順や扱う材料・用具、表現技法等についての見通しをもつ。
あ ら わ す	⑦参考作品等の資料を見て、表現のよさ等を見付け、自分の表現をさらに工夫する。 ⑧表現途中の作品を見合い、材料・用具の扱いや表し方の工夫等について話し合い、さらに表現の幅を広げる。

あ	⑨完成した作品を見合い、互いのよさに気づき認め合う。
じ	⑩表現への思いや表現の工夫を伝え合い、身に付けた知識や技能を自覚し、達成感や充実感をもつ。
わ	
う	

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

1 今泉 敦子（小学校教諭）

（1）実践①「お話ロボット」（小学校第2学年）

目 標	いろいろな大きさの箱や容器を集め、積んだり並べたりして、つくりたいロボットの様子を発想し、おもいついたことを基に、色や形・接着の方法を考えて立体的に表す。	
	主 な 学 習 活 動	研 究 上 の 手 だ て （ 交 流 活 動 ）
	<ul style="list-style-type: none"> ○ロボットづくりの見通しをもつ。 ○空き箱や空き容器を持ち寄り、積み木遊びをし、幾通りもロボットの形を構想する。 ○アイデアスケッチで思いを確かめる。 ○丈夫に接着する方法やお話カードが出る仕組みを考えてロボットをつくる。 ○鑑賞の視点を示して鑑賞会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①参考作品（体の一部が動く・カードでお話ができる）を鑑賞し、発見したことを話し合う中でロボットの仕組みを理解し、活動への見通しをもつ。 ⑤アイデアスケッチを描いた後、交流し、広がった思いをスケッチに描き加える。 ⑨ロボットを介して互いのロボットの良さをお手紙交換で伝え合う。



（2）実践②「見て見てお話」（小学校第2学年）

目 標	物語やお話から思いを膨らませながら、自分なりの表し方を見付けて楽しみながら絵に表す。	
	主 な 学 習 活 動	研 究 上 の 手 だ て （ 交 流 活 動 ）
	<ul style="list-style-type: none"> ○お話から思いを膨らませ、楽しい夢の世界やそこへ行くための乗り物を考える。 ○行ってみたい世界のイメージに合う色や形を工夫してクレヨンと絵の具で描く。 ○クレヨンのぼかしを生かして背景を描く。 ○鑑賞の視点を示して鑑賞会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①表したい世界や乗りたい乗り物について話し合い、イメージを広げる。 ③旅行記を書いて伝え合い、イメージをより具体的に抱けるようにする。 ⑩「旅の思い出発表会」として旅行記とともに絵を見合い、感想メモを交換する。



手紙による導入の演出と乗り物のアイデアスケッチで思いを高める。

（3）実践③「これいいかんじ」（小学校第2学年）

目 標	ドロドロ粘土の感触を楽しみながら、指で自由に表現してできた画面の凹凸から思いをふくらませ、自分なりにイメージしたことをフィンガーペインティングで表現する。	
時 間	主 な 学 習 活 動	研 究 上 の 手 だ て （ 交 流 活 動 ）
1	<ul style="list-style-type: none"> ○紙粘土に水を混ぜ、ドロドロ粘土作りをして、その手触りや変化する材料の感じを楽しむ。 ○段ボール紙に指や手のひらで伸ばしたり、ふりかけたり、ぬり付けたりしていろいろな描き方を楽しむ。 ○いろいろな試しの後、自分で気に入 	<ul style="list-style-type: none"> ②粘土の変化による驚きや楽しさを共有できるように、意図的に児童のグループ分けをして、自由に交流できるようにする。 ⑤できた模様を擬音語で友達に話したり、自分の考えたやり方を説明しあったりする交流活動を設定し、互いの工夫に気付くことができるようにする。
2		

		った凹凸の画面を残す。	
3	あ	○できた画面を見合って想像したことを話し合い、描きたいものを思い付く。	⑦パターンに合わせた参考作品を提示し、全体で見立てを行うことで、見立て方を習得し、活動に見通しをもたせる。
4	わ	○絵の具を使って思い付いたことを指で描き加えていく。	⑧乾燥し、変化した材料の感触を味わったり、自分の画面を見て、想像したことなどを語り合ったりする交流活動を通して思いを広げていく。
5	あじ	○自分の作品について説明したり、お互いの表現のよさを見付けあったりする。	⑩表したいことを思い付いたきっかけや、描きながらふくらんでいった自分の願いや夢を話せるよう、ミニ展覧会を開く。



(4) 実践の成果と課題 (○成果、●課題)

- 何を表したいか分からないといった発想でのつまずきに対し、全体での交流で思い付くことを出し合ったり、ワークシートを工夫して児童自らが自分の考えを客観的にとらえられるようにしたりすることで、全児童が自分の思いをもって表現活動に取り組むようになった。
- 漠然としたイメージを色や形、言葉で伝え合うことで、より具体的なイメージが抱けるようになる。その上で造形活動を行うことで、自分の表現したものに対して、自信や愛着をもつ児童が増えた。
- 色や形、工夫といった視点で互いの感想を交換したり、作品に対する思いを語り合ったりすることで、自分や友達の違いやよさを認め合う温かな雰囲気ができ、学級という人間関係作りの場に効果があった。
- 活動の場面での、交流の目的と設定の仕方を明確にし、題材のねらいに合わせて効果的に交流活動を設定した題材指導計画を作っていくたい。
- 交流活動を継続することで、心から言いたくなる内容を育て、児童自らの発信力を引き出せるようにしたい。

2 山崎 清美 (小学校教諭)

(1) 実践①「どんでんできるよ」(小学校第2学年)

目 標	切った新聞紙をつないで道に見立て、思いをふくらませ町をつくって楽しさを味わう。	
	主 な 学 習 活 動	研 究 上 の 手 だ て (交 流 活 動)
	<ul style="list-style-type: none"> ○手で新聞紙を同じような幅に切るための工夫を話し合う。 ○新聞紙をつないで道に見立て、町をつくる。 ○どんな町にしたいか自由に話し合う。 ○店や車など、思いに合った町に必要なものをつくる。 ○町で遊びながら話し合ったり楽しく活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②二人組で話し合う時間を設定して、新聞紙を手で切る工夫についてよいアイデアを出し合えるようにする。 ④学級全体で話し合う時間を設定してどんな町にしたいか話し合い思いをふくらませる。 ⑧製作をしながらどんな町にしたいか自由に話し合う時間を設定して、遊びや活動の中から子ども同士の意見交換ができるようにして、楽しさを味わえるようにする。

(2) 実践②「ざいりょうのへんしん」(小学校第2学年)

目 標	身の回りの材料の形や色に関心をもち、それを生かしながらかつくりたい生き物をつくる。	
	主 な 学 習 活 動	研 究 上 の 手 だ て (交 流 活 動)
	<p>○身の回りにある材料を見て、何に見えるかグループで話し合う。</p> <p>○身の回りの材料で、つくりたい生き物を考えアイディアスケッチを描く。</p> <p>○材料を組み合わせたたり飾りを付けたたりしながら、つくりたい生き物をつくる。</p> <p>○できた作品に名前を付け、プロフィールカードを書く。</p> <p>○プロフィールカードを友だちに見せながら班で発表会をする。</p>	<p>②グループの交流と、学級全体の交流の時間を設定して、材料への思いをふくらませたり、友だちの発想から形を発見できるようにする。</p> <p>⑥材料を並べ替えたりいくつかの材料を組み合わせたたりすることで、色々な形ができることを学級全体の交流で示して気付かせ、発想が広がるようにする。</p> <p>⑩グループの交流を設定し、プロフィールカードを使って自分がつくった生き物を友だちに楽しく紹介できるようにする。</p>



(3) 実践③「ひかりのおくりもの」(小学校第2学年)

目 標	段ボールなどの材料を加工して、光や影の美しさや面白さを十分味わう。	
	主 な 学 習 活 動	研 究 上 の 手 だ て (交 流 活 動)
	<p>○カラーセロハンを光にかざして遊び、光を利用してつくりたいものの見通しをもつ。</p> <p>○カラーセロハンと段ボールでつくる遊びたいもののアイディアスケッチを描く。</p> <p>○段ボールを切って土台になる板をつくる。</p> <p>○段ボールにカラーセロハンを貼る。</p> <p>○色々な場所に映して映り方の違いを楽しむ。友だちと一緒に映したりして美しさや面白さを楽しむ。</p>	<p>②カラーセロハンや段ボールの影を色々な場所に映して遊ぶ自由に交流する時間を設定し、友だちと交流しながらや影に興味をもたせられるようにする。</p> <p>⑤自分のアイディアをグループで紹介し合ったり、学級全体で交流したりする中で、アイディアを修正し、再構想できるようにする。</p> <p>⑨できた作品で遊ぶ時間を十分に確保し、友だちと交流しながら美しさや面白さを味わえるようにする。</p>



(4) 実践④「きってワクワクめくルンルン」(小学校第2学年)

目 標	つくりたい魚の形や模様に関心をもち、カッターナイフの正しい扱い方に慣れ、紙などでつくりたい魚を工夫して表す。	
時間	主 な 学 習 活 動	研 究 上 の 手 だ て (交 流 活 動)
1	<p>○知っている魚について名前、大きさ、形、色、性質などを紹介し合う。</p> <p>○色画用紙をカッターナイフ切る練習をする。</p>	①学級全体で交流する時間を設定し、形や色、うろこの模様などに関心が向くようにして、発想・構想に生かせるようにする。
2	<p>○裏から貼る模様の紙をつくる。</p> <p>○つくりたい魚のアイディアスケッチを描く。</p>	
3	○アイディアスケッチを友だちと紹介し合う。	⑤グループで自分のアイディアスケッチを紹介し合い、友だちのアイディアを参考にしたり、自分のアイディアに自信をもったりしながら、さらにアイディアを練られるようにする。その際、アイディアスケッチに付け加えたり変更したりする部分は朱書きにし
4	○色画用紙にカッターナイフで切り込みを入れ、魚をつくる。	

		○切り抜いた裏から模様を貼る。	て、交流前と交流後の変容がみられるようにする。
5		○釣り遊びができる仕組みをつくる。	
6	あじ わう	○魚釣りごっこをする。	⑨青いビニールシートを池や海に見立て釣り大会を実施し、自分や友だちがつくった魚を釣り上げることで友だちの作品の面白さや違いに気付いたり感想を伝え合えるようにする。



(5) 実践の成果と課題 (○成果、●課題)

- 学習活動の中に児童同士の交流活動を設定したことで、つくりたいものへの思いが高まったり、より明確になったりする姿がみられた。友だちとアイデアを紹介し合うことによって、自分のアイデアがさらによいものになるということを見ても理解し、表現活動への積極的な取組につながった。
- アイデアスケッチや鑑賞カードを工夫することによって、自分の思いを広げたり、友だちに思いを伝えたりすることに楽しさや喜びを感じ、思いを表現することに積極的に関わろうとする児童が増えた。
- 題材のねらいに沿って、発想・構想の場面や鑑賞の場面などの学習活動の中の、より効果的な場面に交流活動を設定して題材指導計画を立てる。交流の方法についても、ねらいに合った形態がとれるように計画する。
- 交流活動を設定することにより発想・構想する力がついてきたので、児童の作業の丁寧さを紹介するなど、技能の能力を高めるような交流を考え設定していきたい。
- 鑑賞の場面で交流することにより、友だちのよさに気付くことができる児童が増えてきたので、交流活動を継続し、お互いを認め合える学級づくりにつなげていきたい。


3 星野 正 (小学校教諭)

(1) 実践①「光の家」 (小学校第5学年)

目標	光の特性を生かして、自分の表したい世界を構想して作り、テーマごとに友達と話し合いながら、作品を効果的に展示し、鑑賞し合う。	
	主な学習活動	研究上の手立て (交流活動)
	<ul style="list-style-type: none"> ○光の効果を考えて自分の表したい世界を構想し、発表を聞きテーマを決める。 ○出されたテーマから、自分の表したい世界を決め、アイデアスケッチを描く。 ○アイデアスケッチをもとに、制作を進める。 ○粘土が乾いたら、テーマに沿って色塗りをする。 ○テーマごとに作品を展示し、お互いの表現のよさを見付けて伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分のつくりたい世界を全員に発表させ、交流を通してより広い視野から考え、多くの選択肢の中からテーマを決められるようにする。 ⑧製作のしかたを見合ったり、効果的な表現をしている児童を紹介したりしながら交流を進める。 ⑨テーマごとに分けた班内で、互いの作品のよい点を見付け、「伝言カード」に記入して、伝え合う。



(2) 実践②「動くよ動く絵が動く」 (小学校第5学年)

目標	次々と落ちて変化する絵を工夫しながら、絵が変わって動いていく面白さを味わい、互いの作品の楽しさを認め合う。	
	主な学習活動	研究上の手立て (交流活動)
	<ul style="list-style-type: none"> ○サンプルの動きを見て絵の動く仕組みを理解し、ボックスをつくる。 ○テーマを決め、絵の動きを考え、アイデアスケッチを描く。 ○動く絵をカードに下がきし、実際に動かして試し、修正を加える。 ○サインペンで線描きし、絵の具や色鉛筆などで着彩する。 ○描いた絵の内容に合わせて、ボックスの飾り付けを工夫する。 ○作品を発表し合い、絵の変化の効果的な点を見付け、伝え合う。 	<p>⑤アイデアスケッチや下がきを見合い、絵柄の見やすさや変化の分かりやすさについて伝え合う。</p>  <p>⑨作品を発表し合い、絵の変化の効果的に表現されている点を見付け、伝え合う。</p>

(3) 実践③「夢の旅」 (小学校第5学年)

目標	場面を想像する楽しさを味わい、構図や色の使い方を工夫して描き、互いの作品のよさや工夫を認め合う。	
時間	主な学習活動	研究上の手立て (交流活動)
1 あ う	<ul style="list-style-type: none"> ○パチックや水彩画の技法を使って着彩する表現技法を試し、試しの作品から何をイメージできるかを考える。 	⑤試しの作品を見せ合い、作品からイメージできることを出し合う。
2 ら ま せる	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のしてみたい「旅の世界」を構想し、「旅のプラン」に基づいてアイデアスケッチをかく。 	⑤アイデアスケッチを見て、お互いの「旅の場面」を伝え合い、意見を交換し合う。
3 あ ら 5 わ 6 す	<ul style="list-style-type: none"> ○アイデアスケッチをもとに、構成を考えて下がきをする。 ○自分の旅の場面に合った表現技法を取り入れて、色塗りをする。 ○旅の背景に、切り抜いておいた自分の姿を貼り、作品を完成させる。 	⑧製作のしかたを見合ったり、効果的な表現をしている児童を紹介したりしながら交流を進める。
7 あ じ わ う	<ul style="list-style-type: none"> ○作品を発表し合い、発想の面白さや旅の場面に合った表現の工夫を見付け、伝え合う。 	⑨友だちの作品を見て、発想の面白さや場面に合った表現技法、構図、色の使い方の工夫を見付け、伝言カードに書いて、交流する。



(4) 実践の成果と課題 (○成果、●課題)

- 題材のテーマについて、表現できそうなことを出し合い、その中から自分の表現したいテーマを決めて取り組んだことで、各自の思いを広げることに役立ったり、発想の苦手な児童にとって、発想の手がかりとなったりした。
- 参考作品や表現途中の友だちの作品のよいところを見合い、伝え合うことで、自分の表現に生かし、表現の幅を広げることができた。
- 作品発表会や鑑賞会を開き、お互いの作品を見合い、「伝言カード」に友だちの作品のよいところや工夫点を記し、伝え合うことで、自分の気付かなかったよい点や効果等に気づき、達成感や充実感を味わうことができた。
- 交流活動の目的を明確にして、児童が各自の発想や表現、鑑賞に生かせるような交流活動を、計画的に取り入れた研究を進めていきたい。

IV 研究の成果と課題

1 成果

- 「であう過程」に交流活動を設定し、一人一人が発想したことを全体で共有できるようにしたことで、そこからさらに発想を広げたり自分でできそうなことを考えたりして、導入でつまづくことなく、自分の思いをもって進んで学習に取り組めるようになってきた。
- 「ふくらませる過程」で発想・構想したことを交流できるようにしたことで、自他の思いや工夫のよさを認め合いながら、さらに思いを膨らませ、表現への見通しをもって取り組めるようになってきた。
- 「あらかわす過程」で、教師が提示した資料や製作途中の作品を見ながら交流したことで、一人一人がさらに表現を工夫し、必要な技能を高めていくことができるようになってきた。
- 「あじわう過程」で、完成した作品を見合い、よさを認め合う交流を行ったことで、児童が自分の成長を自覚できるようになってきた。
- 交流活動を行ったことで、児童が見通しをもって授業に取り組めるようになり、計画した時間の中で作品をしっかりとつくりあげられるようになってきた。また、表現や鑑賞に目を輝かせて生き生きと取り組む姿が多く見られるようになってきた。
- 交流活動を設定した題材指導計画の作成を通して、題材に応じた発想・構想のさせ方や表現の工夫のさせ方がよく分かるようになってきた。そのため、児童に確実に身に付けさせることや、その身に付けた力を活用して自分なりに工夫させることを意識して指導ができるようになってきた。

2 課題

- 題材によって交流活動が有効に機能する場面が違ってくるため、題材の内容や児童の実態、育てたい資質・能力をよく検討し、効果的な交流活動の在り方について今後も研究していくと共に、今回研究対象とした小学校2年・5年以外の学年においても、交流活動を位置付けた題材指導計画の作成を進めていきたい。